

電力事業を支える地域に根ざした研究所

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 0 1 7 号
名称 (型式等)	一般財団法人 電力中央研究所 我孫子地区
所在地	千葉県我孫子市我孫子 1646
設立年	昭和 27 (1952) 年

選定理由

昭和 32(1957)年、電力の安定供給に関する自然・環境科学研究の国内の中心的な拠点として、我孫子市に設置され、研究所公開や講演会の開催など、地域に根差した活動はもとより、私たちの暮らしを支える電気事業の先進的・基礎的研究を行っている研究機関です。

戦後の日本復興を支える電力産業の技術研究開発のため、昭和 26(1951)年、東京に電力技術研究所が設立され、昭和 27(1952)年に財団法人電力中央研究所へと改称し、昭和 32(1957)年、農業技術の電化・機械化を推進するため、農電研究所が我孫子市に設置され、現在の電力中央研究所我孫子地区の前身となりました。その後、ダムの建設合理化、火力・原子力発電所の温排水拡散予測などを進める土木技術研究所と、野菜工場・魚工場の開発、電界の植物影響に関する研究などを進める生物環境研究所が設置され、平成 16(2004)年には狛江地区の大気部門も併合し、地球工学研究所と環境科学研究所、及び管理部門の我孫子運営センターに再編されました。さらに、平成 27(2015)年、調達センターなど狛江地区の事務・管理部門も受け入れ、今の一般財団法人電力中央研究所我孫子地区となりました。

現在、電力中央研究所我孫子地区は、自然・環境科学研究の拠点として、地球工学研究所が地震や津波などの自然災害から電力施設を守るための「電力施設の自然災害軽減技術」やダムや送電設備などの電力施設の健全性を維持・確保する「電力施設のメンテナンス技術」などに関する研究開発を推進し、環境科学研究所が「地球温暖化問題への対応」や「発電所の環境影響評価」、さらに、石炭火力発電所の安定的な運転を支援する「火力発電所の効率的運用」等、地球規模の環境問題の解決に向けて高度な研究を推進しています。



電力中央研究所我孫子地区主要研究設備イラスト

参考資料：電力中央研究所我孫子地区パンフレット